

令和5年度 東久留米市立 小山小学校 学校評価報告書

学校教育目標	○元気よく・・・健康に関心をもち、その維持向上に努める。	教育ビジョン	【目指す学校像】	I 児童にとって「楽しい学校」明日が楽しみになる	II 保護者・地域にとって「信頼できる学校」通わせてよかったと思える学校	III 教職員にとって「喜びの持てる学校」働くことに喜びを感じる
	○なかよく・・・豊かな心をもち、互いに協力し合う。		【目指す児童・生徒像】	I 笑顔であいさつし、心も体も健康で過ごす子	II 誰にでも優しく、友達と関わる子	III 自分で考え、伝え合う子
	○やりぬく・・・深く考える強い意志と、創造的な実践力を培う。		【目指す教師像】	I 子供のことを第一に考え、子供と共に歩む教職員	II 保護者や地域の声に耳を傾け、お互い高め合う教職員	III あいさつを大切に、爽やかなおもてなしができる教職員
前年度までの学校経営上の成果と課題	【成果】学力は都平均と全国平均の間ぐらいである。全体的に落ち着いて学校生活を過ごしており、言われたことを素直に実行しようとする児童が多い。学年が上がるにつれて主体的に様々な活動に取り組もうとする姿勢が身に付いている。【課題】学力については「できる」「できない」の開きがある。基礎・基本を確実に定着させるとともに主体的に学びぬ向かう姿勢を身に付けさせ、思考力・判断力・表現力等をさらに高めていく。					

東久留米市第2次教育振興基本計画				中期経営目標 (令和7年度までの3年間)	短期経営目標 (1年間)	評価指標・評価基準	自己評価	学校関係者評価			次年度の方策
No.	三つの柱	基本施策	今年度学校で重点を置く「具体的施策」		取組目標	成果指標	取組	成果	評価	コメント	
1	II 学力向上	確かな学力の育成	基礎的・基本的な学力の定着と学ぶ意欲の向上	教員が高度な指導力をもち、個に応じた指導を充実させ、基礎的・基本的な学力の定着を図る	・学習規律を全児童が身に付け、一人一人が主体的に学びに向かえるような指導の充実を通して、基礎的な学力の定着を図る。 ・安定した学級経営で、落ち着いた学習環境を確立する	・授業改善プランの活用 ・東京ベーシックドリルの活用 ・学力パワーアップサポーターによるパワーアップ教室の実施 ・タブレット・パソコンを活用した授業の実施	A	B	3.3	<確かな学力の育成> ○確かな学力の育成については、定着と学ぶ意欲の向上が認められるが、生きる力の礎となる見えない学力も含めて、さらなる伸展を期待したい。 ○教員は自分の個性や良さを生かしながら、工夫して授業を行っている。 ○学校の学力向上に関して自分で計画して取り組める方法を学校と保護者がともに考えサポーターしていく体制を更に強化していくことが重要だと思う。 ●教員の個人差が大きい。 ○学力学習調査でよい結果がでているのはすばらしいです。やればできるという意識にうまくつなげて、学力の定着に活かして行って下さい。 ●基礎的・基本的な学習の定着については、大方の児童が身に付けているように思います。パワーアップ教室を希望する児童のレベルは、毎年波があり、個別の指導を要する子の人数がまちまちです。同じ課題を与えても、簡単にクリアする子と全く歯が立たない子の差が大きいです。教室でも先生方の苦労はそこにあると思います。 ●算数の図形などで、折り紙を使ったところ、器用さにかなり差がありました。日常手を使った遊びや、何かを組み立てたり切り抜いたりする経験が少ないように思います。 <自己肯定感・自己有用感の醸成> ○子どもたちが自信をもって行動したり、他人への思いやりの気持ちをもったりするなど、主体性が育まれている。 ○学校図書館・タブレット	○小山小スタンダードを活用した授業規律の徹底を図る。 ○学力パワーアップ教室は、指導者と分掌担当者、及び担任が連携を徹底しながら放課後や夏季休業中に実施し、補足的な学習指導を継続していく。 ○家庭と連携し、一人1台タブレット端末を活用しながら予習や課題に対する個人の考えをもつ内容を含めた家庭学習を進め、自分の考えを伝え合い、学び合う授業づくりを充実させる。
2	I 健全育成	個性を認め合う教育の推進	自己肯定感・自己有用感の醸成	主体的に学びに向かう児童を育成し、自己肯定感を高める	学校・学級の一員として、自分で考えて自分の行動に責任をもつ児童を育てる	・道徳の授業の充実 ・地域学習の充実 ・委員会・クラブ・たてわり班活動の充実 ・特別活動・学級活動の充実	A	A	3.9	●12月実施児童アンケート自己肯定感 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	○児童が集団活動に主体的に取り組む、自分たちの学校生活を自らが創り出すという実践的態度を次年度も継続して育てていく。そして、友達と協働する意義を理解し、よりよい人間関係を作り、自分の生き方について考えを深めることができる児童を育てる。 ○児童自らすすんで考え、解決し、協力して取り組む姿勢を、次年度も児童会活動や学級活動を通して育む。
3	II 学力向上	確かな学力の育成	学校図書館の活用と充実	すべての教員が読書活動や書く活動を推進し、言語活動の向上を目指す	読書への興味・関心を高めたり、本やタブレットで調べ物をしたりする児童を増加させる	・全学級が巡回司書の活用を実施 ・読書旬間の充実 ・読み聞かせ活動 ・図書資料やタブレットの活用 ・市図書館との連携 ・書く活動の推進	B	A	3.0	●12月実施児童アンケート学習における活用 A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	○読書旬間、保護者や教師の読み聞かせ、おすすめ本の紹介会活動など、これまでの取組を継続させるとともに、図書館利用指導年間計画に沿った本の活用や保護者の読み聞かせ講座等、家庭と連携しながら本に親しむ環境を作る。 ○タブレットと本の特徴を生かして調べる、紙ベースに書く方法とタブレットに入力する方法から選んで表現するなど、タブレットをツールとして活用しながら書く活動の機会を増やす。
4	I 健全育成	規範意識や他人への思いやりなど豊かな心を育む教育の推進	規範意識と豊かな人間関係を育む教育	一人一人の児童が他人と協働しながら、お互いにとってより良い生活をしていこうとする力を育成する	考え議論する道徳授業や学級活動を通して、友達との関りや、自分のことを振り返ることのできる児童を育てる。	・道徳研修会・授業研究の実施 ・道徳授業地区公開講座の充実 ・特別活動の充実 (委員会、縦割り、学校行事等)	B	B	3.1	●12月実施保護者アンケート規範意識 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	○道徳の授業では、発言しやすい学級経営を基盤に、対話的活動を充実させながら、自分自身の日常生活を振り返り、自身の生き方につながる実践的態度を育てる。 ○人権標語や作文の掲示、人権に関する図書コーナーの設置、児童朝会の講話など、人権感覚を育てる機会を増やす。 ○児童の人権感覚は教員の日頃の人権感覚が影響していることを強く認識し、児童一人一人を大切に教育に努める。
5	I 健全育成	いじめ問題への対応	いじめ防止対策推進基本方針に基づいた取り組みの推進	教職員の確かな児童理解のもと、児童一人一人が自己有用感を高め、居場所のある学校づくりを目指す	教職員の共通理解のもと、児童一人一人が尊重される安定した学級経営を推進し、友達とかかわりながら自分の力を高める指導を行う	・「心のつぶやきアンケート」毎学級実施 ・SCIによる5年生全員面接 ・教職員の情報共有(週1回)	B	C	2.8	●12月実施保護者・児童アンケート居場所がある学校づくり A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	○全学級年3回のいじめに関する授業を確実に実施し、いじめについての児童の意識を高め、未然防止に努める。 ○「心のつぶやきアンケート」によるいじめの早期発見、必要に応じたいじめ防止対策委員会の開催、確実な事態把握、情報共有、早期対応を推進する。 ○いじめ防止対策推進基本方針やいじめに関する取組内容を保護者に発信し、理解と協力を得られるようにする。
6	III 教育環境の整備	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実	組織的に児童の実態把握・指導を推進し、特別な支援を要する児童の教育をさらに充実させる	校内委員会の計画的な開催によって組織的な対応を図り、早期に指導にあたる	・校内委員会の充実 ・研修会の実施 ・ポプラ教室指導教員とのさらなる連携 ・生活指導協議会・連絡会の充実	B	B	2.9	●12月実施教員アンケート特別支援教育の充実 A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	○児童一人一人の理解に努め、長所を伸ばしていくことに重点をおきながら個に応じた指導を充実させる。保護者との連携を大事にしきき、組織的な支援を行う。 ○ユニバーサルデザインを意識し、すべての児童にとって参加しやすい授業づくりを推進する。 ○特別支援教室の目的や内容について理解を深めるために、全校児童、保護者への情報発信に努める。
7	III 教育環境の整備	安全・安心な学校づくり	地域や外部人材を生かした体験活動の充実	本物に触れるなど体験を通して、人とかかわり方を学び、自分の生き方について考えることができる児童を育成する	外部人材をあらゆる機会に活用し、人とかかわる経験を多く積むようにする	・地域環境地図「こやマップ」の取組 ・防災教育 (地域防災訓練) ・地域学習、農園体験 ・ふれあい塾など	B	B	3.5	●12月実施保護者・児童アンケート人材活用 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	○地域人材を活用し、こやマップの取組や学校農園を活用した食育に関する学習、また防災教育等を推進する。 ○仮設校舎の建設、本校舎西側の解体・増改築工事の中で児童・教職員・保護者が安全に生活できるよう対応策を考え、情報発信に努める。 ○廊下歩行の必要性について児童にも考えさせ意識させる取組を行い、事故防止に努める。
8	II 学力向上	日本人としての自覚と豊かな国際感覚をもつ人材の育成	伝統と文化の理解の推進	日本の伝統・文化に触れる体験や障害者理解につながる体験を積み重ねるとともに小山小の歴史にふれ、豊かな感性を磨くとともに、これからの社会を生き抜く力を育てる	日本の伝統・文化に触れる体験や障害者理解につながる体験を積み重ねるとともに小山小の歴史にふれ、豊かな感性を磨くとともに、これからの社会を生き抜く力を育てる	・日本の伝統文化を学ぶ授業の実施 ・国際理解教育として講師を招聘しての授業実施 ・車いす体験やアイマスク体験の実施	A	B	3.1	●12月実施保護者・児童アンケート学校レガシー A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	○日本の伝統・文化に触れる体験や障害者理解につながる体験を積んだり、自身の体力・健康の向上を図るための取組を行ったりする中で、豊かな感性を磨くとともに、これからの社会を生き抜く力を育てる。 ○国際理解教育の推進に向け、外部人材やALTの活用について工夫していく。
9	III 教育環境の整備	各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進	仕事の効率化	教員自身が「働き方改革」を意識し、いつでも子供の前ではつらつとした姿で対応し、様々な刺激を与えられるようにする	組織を活用した学校運営を推進し、計画的に職務に取り組む。また凡事徹底を図る	・経営支援本部の設置 ・分掌主任の活用 ・会議内容の精選 ・校務支援システムの活用	A	A	3.4	●12月実施教員アンケート仕事の効率化 A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	○学級経営や教材研究、児童理解に力を注げるよう、会議の精選を行い、効率的な職務遂行に努める。 ○一部教科担任制の導入により、教員の授業力の向上と効果的・効率的な働き方を推進する。 ○教職員の資質能力を向上させるために、学校経営支援部を中心にOJTの企画運営を担い、組織的に推進していく。